

映像配信のアーカイブ実験室

2021 年度活動報告

本プロジェクトはライブ配信を通じたアーカイブの利活用や共有のための新しい方法を実験することを目的としている。2020 年度のコロナ禍においてこれまでの対面でのやりとりからオンライン・レクチャーやライブ配信の必要性が高まり、その試行錯誤の経験から本プロジェクトは構想された。2021 年度は上半期はオンラインが続いたものの、下半期は対面の活動が回復しつつ、また新たなコロナウィルスの流行による不安定な状況が続いており、日々の対応の切り替えで十分な新たな実験が行えずにいる。

とはいえ今年も昨年と同様に、7 月 13 日にクラブメトロで行われた古橋悌二の生誕祭「"LOVERS 61" Teiji Lovers Birthday Bash」に

映像配信者として参加したことは特記しておきたい。これは、対面とオンライン配信のハイブリッドでの開催となったが、今回は大学時代から古橋悌二のことをよく知る山中透氏、シモーヌ深雪氏、ブブ・ド・ラ・マドレーヌ氏によるトークを軸に、その背後のスクリーンに 1980 年代のバンド活動やダムタイプ結成前の未公開のパフォーマンス映像などを投影させた。導入として山中透氏の用意した自らの新曲レクイエムのリミックスに合わせて、エイズ危機の時代に展開した美術作品の静止画のオーヴァーラップを通して、故人が創作を開始する時期の多様な美術表現とともに回顧した。今回用いた当時の記録映像は、ベータカムの映像をデジタル化したものだが、未編集のライブ記録や実験テイクが中心である。その映像は、現代の基準からすると解像度は低く、画面も黒潰れしている。今回の配信では、当時のビデオの貧しい質感を活かすために一部の映像は彩度を落としてコントラストを強調しながら光に沈む黒を強調し、それにゲイリー・ヒルやサバイバル・リサーチ・ラボのフッターやダイヤモンド・アー・フォーエバーの当時のフライヤーなどサイケデリックな色彩の映像もアルファ合成した（ツールとして 2 系統の動画ファイルの再生速度を緩やかに変化させながら合成できる「djay」を使用）。過去の記録映像、既存のアート、時代を回顧するトークや音楽をリアルタイムで相互に調整しながらひとつの場が創出された。イベントの流れにあわせた映像はディゾルブや変形によって抽象度が高められ、時空の異なる映像のリミックスは、音楽のリズムと同期される。クローズド・サーキットのフィードバックループや反復、時空の歪みやモアレによって、当時の精神を少しでも喚起できていれば幸いである。

さて、こうしたイベントに並行して沓掛キャンパスの記録を写真で残す試みも進めている。当初の予定では、白黒写真でキャンパスを記憶したり、過去にキャンパスで撮られた写真を回顧するワークショップをライブ配信と併せて行う予定にしていた。しかし対面をとまなうワークショップのライブ配信は、感染リスクを考えると日程の調整と参加者への呼びかけが難しいこと、また現在中心となるスタッフに配信の経験がなく準備に手間がかかることから断念した。代わってこれまで録画と編集を行ってきた映像配信法に切り替えた。また、ウェブからの写真投稿の利便性を高めるために投稿システムのアップロードを図ったため、下半期からの沓掛キャンパス写真アーカイブプロジェクトの YouTube での投稿頻度が遅れている。来年度は感染状況を見ながら遠隔参加も含めたライブ配信のあり方を一から見直したうえで、より柔軟に状況に対応できるアーカイブ利活用の方法を模索する予定である。

石谷治寛（芸術資源研究センター客員研究員）



ミス・グロリアス、DJ 南塚也



山中透、シモーヌ深雪、プブ・ド・ラ・マドレーヌ 京都メトロにて